

令和6年度 姉妹都市交換学生事業報告書



横須賀市

(運営 NPO 法人横須賀国際交流協会)

目 次

1	姉妹都市交換学生事業の概要	1
2	姉妹都市の紹介	2
3	交換学生受け入れ事業	3
(1)	姉妹都市からの受け入れ学生	3
(2)	受け入れ日程	4
(3)	受け入れ行事	5
(4)	受け入れ学生の感想文	9
4	交換学生派遣事業	14
(1)	姉妹都市への派遣学生	14
(2)	研修・派遣日程	15
(3)	研修	16
(4)	派遣学生報告書	19

1 姉妹都市交換学生事業の概要

(1) 目的

本市の高校生の国際理解を深めるとともに、姉妹都市との交流を通して、姉妹都市やその国々との相互理解と友好関係を深めることを目的としています。

(2) 内容

毎年、7月から8月の約2週間の間、横須賀市は各姉妹都市に高校生を派遣し、また姉妹都市からも高校生を受け入れています。令和6年度は、コーパスクリスティ市（アメリカ）、ブレスト市（フランス）、メッドウェイ市（イギリス）との間で相互派遣・受け入れを行いました。

◎派遣学生について

- ・横須賀市の親善大使として、横須賀や日本の文化・魅力を各姉妹都市に発信します。同時に姉妹都市の文化・魅力を学び、横須賀市民に伝えます。
- ・派遣前の研修では、英会話だけでなく、日本の文化や横須賀の観光スポットを学ぶことで、姉妹都市で日本や横須賀を紹介するための知識・技能を習得します。また、現地での調査テーマを決めて、調査方法の検討などの準備を行います。
- ・姉妹都市からの受け入れ学生が横須賀に滞在している間、市内見学や日本文化体験などの受け入れ行事に案内役として参加します。
- ・派遣先では、ホームステイをしながら、市長表敬などの公式行事や現地の高校生との交流イベントなどに参加します。また、調査テーマについて、アンケートやインタビューを行い、帰国後に報告書としてまとめます。（本報告書の p. 19～33 参照）

◎受け入れ学生について

- ・市内の家庭でホームステイをし、自国の文化や姉妹都市の魅力を横須賀市民に伝えます。
- ・ホームステイや受け入れ行事を通じて横須賀や日本の文化や魅力を姉妹都市へ持ち帰ります。

(3) これまでの経過

昭和42年（1967年）にコーパスクリスティ市と高校生の相互交換を開始して以来、令和6年（2024年）までに364名の派遣、336名の受け入れを実施しました。

2 姉妹都市の紹介

イギリス・メッドウェイ市

提携：1998年8月26日

(旧ジリングラム市と1982年4月8日に提携)

人口：約279,000人 面積：192km²

ロンドンの南東、メッドウェイ川下流に位置する産業・住宅都市。海軍造船の町として栄えたが、現在は、閉鎖された海軍施設跡に企業を誘致し発展。1998年4月1日、ジリングラム市とロチェスター市等が合併してメッドウェイ市となった。ジリングラム市は、航海術や造船技術をわが国に伝えた三浦按針(ウィリアム・アダムズ)の生誕地。

アメリカ・コーパスクリスティ市

提携：1962年10月18日

人口：約314,000人 面積：1,192km²

テキサス州のメキシコ湾沿岸にある港湾産業都市。石油、天然ガス、農産物、化学製品を産する。日本の貨物船もしばしば訪れる亜熱帯の避寒観光地。海軍航空訓練基地がある。ビーチリゾートとして知られるパドレ・アイランドの玄関口として、全米から避寒客、観光客が訪れている。テキサス州立水族館や空母レキシントン博物館がある。



フランス・ブレスト市

提携：1970年11月26日

人口：約140,000人 面積：50km²

ブルターニュ地方フィニステール県の主要都市。第2次世界大戦後、近代都市として復興した港湾産業都市。造船、情報処理産業、農業、漁業が盛んで、海軍基地や国立海洋科学研究所がある。横須賀製鉄所(造船所)の開設に貢献したフランス人技師フランソワ・レオンス・ヴェルニーが勤務していた海軍工廠がある。自転車レースで有名なパリ・ブレスト・パリの折り返し地点。

オーストラリア・フリマントル市

提携：1979年4月25日

人口：約34,000人 面積：19km²

パースの南西に位置する港湾都市。シドニー、アデレードに次ぐ港町。水産・羊毛加工品、家具などを産する。横須賀を母港とする南極観測船「しらせ」の補給港。西オーストラリア州で最初の刑務所であるフリマントル刑務所は、オーストラリア囚人遺跡群として2010年に世界遺産に登録された。

3 交換学生受け入れ事業

今年は姉妹都市から6名の高校生が横須賀市を訪れ、公式行事や受け入れ家庭との交流を楽しみ、友好を深めました。受け入れにあたっては、ホストファミリーだけでなく、横須賀から姉妹都市に派遣される高校生も案内役を務めました。

(1) 姉妹都市からの受け入れ学生

◎コーパスクリスティ市



ダラス・リズカノ
Dallas LIZCANO

[受け入れ家庭]
鈴木ファミリー



ユリ・エストラーダ
Yuri ESTRADA

[受け入れ家庭]
國永ファミリー

◎ブレスト市



マニュエル・ポルトレス=
ゴアノ
Manuel
PORTOLES-GOINEAU

[受け入れ家庭]
山田ファミリー



マルゴ・プレゼネック=
ポルト
Margot
PLOUZENNEC-POLTE

[受け入れ家庭]
横田ファミリー

◎メッドウェイ市



ロバート・ゴッドフリー
Robert GODFREY

[受け入れ家庭]
山田ファミリー



アレクサンダー・デイビス
Alexander DAVIS

[受け入れ家庭]
千葉ファミリー

(2) 受け入れ日程

日程			コーパスクリスティ市高校生
7月	6日	土	羽田着
	7日	日	受け入れ家庭行事
	8日	月	市立横須賀総合高等学校体験入学
	9日	火	
	10日	水	
	11日	木	市内見学（横須賀市自然・人文博物館→観音埼灯台→横須賀美術館→ペリー記念館→記念艦三笠）、市長表敬訪問
	12日	金	横浜見学
	13日	土	水師提督ペリー上陸記念式典出席、ロードアイランド州大学生と交流
	14日	日	受け入れ家庭行事
	15日	月	
	16日	火	猿島見学
	17日	水	日本文化体験（着物・書道・将棋）、市議会正副議長表敬訪問
	18日	木	鎌倉見学
	19日	金	折り紙講習会、お別れ会
20日	土	羽田発	

日程			ブレスト市高校生	メッドウェイ市高校生	
7月	30日	火	羽田着		
	31日	水	市内見学（横須賀市自然・人文博物館→観音埼灯台→横須賀美術館→ペリー記念館→記念艦三笠）		
8月	1日	木	日本語会話レッスン、日本文化体験（着物・三味線）		
	2日	金	東京見学		
	3日	土	受け入れ家庭行事		
	4日	日			
	5日	月	国際ユースフォーラム出席		
	6日	火	猿島見学		
	7日	水	日本文化体験（将棋・書道）、市長、市議会正副議長表敬訪問		
	8日	木	鎌倉見学 伊東市受け入れ行事		
	9日	金	ヴェルニー公園（ブレスト市高校生）、折り紙講習会、お別れ会		
	10日	土	受け入れ家庭行事	塚山公園、浄土寺、伊東市按針祭出席	
	11日	日	羽田発		受け入れ家庭行事
12日	月			羽田発	

(3) 受け入れ行事

◎市長、市議会正副議長表敬訪問と市議会議場見学

市長と市議会の正副議長を表敬訪問しました。市長からの「日本はどうか。」という質問に、ブレスト市とメッドウェイ市の学生は、「たくさんの日本文化を体験できてうれしい」、「日本の銭湯は最高!」と答えていました。市長から荣誉市民証を授与された後、市議会本会議場を見学し、議長席で記念撮影をしました。議会制度の説明を受け、自国の制度との違いに驚いていました。



◎市立横須賀総合高等学校体験入学

コーパスクリスティ市の学生は、市立横須賀総合高校で3日間の体験入学をしました。同校の生徒とバディを組んで、校内を回りました。数学、体育、歴史、地理、秘書実務の授業を受け、クラブ活動で書道や茶道といった日本文化も体験しました。また、バディたちと校内の食堂で昼食をとるなど、充実した高校生活を経験しました。学生たちは、日本の高校生のやさしさに感動したことを、帰る日までずっと話していました。

◎東京見学



学生からのリクエストで、東京見学をしました。浅草では名物の雷おこし作りに挑戦しました。様々な味の中から自分の好きな味を選び、おこしを作りました。出来上がった後、それぞれのおこしを交換して、いろいろな味を楽しみました。その後、全員が楽しみにしていたスカイツリーへ。天望デッキからの景色は圧巻で、学生たちはたくさん写真を撮りました。

◎鎌倉見学

歴史のある鎌倉を訪れ、学生たちは、風情のある建物や街並みにとても感動していました。特に、大仏には、全員が驚きを隠せない様子でした。派遣学生たちが、スポットごとに英語で案内をし、受け入れ学生から毎回拍手をもらっていま



した。鎌倉彫の体験では、自分の好きな絵を選び、彫刻刀で彫り、お盆などを作りました。途中で手が痛くなり、休憩する学生もいました。2時間かけて彫り終えたときには、最高の笑顔で自分の作品を眺めていました。



◎猿島見学

猿島では、初めに派遣学生が英語で猿島の概要を説明した後、実際に兵舎や射撃の痕が残る石垣などの戦争遺跡について説明を交えながら島内を案内しました。横須賀国際交流協会のガイドボランティアの協力もあり、派遣学生と受け入れ学生は猿島の歴史についての知識をより深め、さらにはそれぞれの国の歴史について話し合い、交流を深めました。また自然豊かな猿島で、学生たちは珍しい昆虫を見つけたり、浜辺を散策したりするなど、思う存分に楽しみました。



◎日本文化体験参加

横須賀国際交流協会のボランティアの協力を得て、着物をはじめとした日本文化を体験しました。初めて着付けをしてもらった振袖や袴では、歩き方に最初は苦戦していましたが、全員の着付けが終わると、着物に合わせたいろいろなポーズで写真撮影を楽しみました。折り紙体験では、鶴や実際に回して遊べるコマ、かわいいリボンなどを折りました。慣れない指先の動きに戸惑いながらも、最後まで集中し、素敵な作品を完成させました。書道では、派遣学生が手伝い、受け入れ学生の名前に漢字を当てはめました。自分の名前が漢字になったのがうれしくて、何度も練習し、最後は色紙に書いてお土産にしました。他にも、将棋、大正琴などの体験も行いました。

◎市内見学

(横須賀市自然・人文博物館→観音埼灯台→横須賀美術館→ペリー記念館→記念艦三笠)

派遣学生が英語でガイドを務め、市内見学をしました。受け入れ学生からのいろいろな質問に、携帯で単語を調べたり、他の派遣学生に聞いたりして一生懸命答えていました。各見学場所では、研修のグループワークでまとめた建物の概要や歴史を英語で上手に話しました。話が終わると自然と拍手が起こりました。受け入れ学生は、記念艦三笠の歴史の動画をとても興味深く観ていました。

◎お別れ会



受け入れ学生が帰国する前にお別れ会として、ボーリングをしました。ボーリングが得意な学生も不慣れな学生も一緒に楽しみました。ゲームの合間には、別れを惜しむように会話したり、お互いに写真を撮り合ったりしました。「これでもう会えないのか…」と、涙する学生もいましたが、受け入れ学生たちは、「必ずまた横須賀に戻ってくる」と誓っていました。

◎国際ユースフォーラム出席

国際理解を深め、相互交流を促進するため、横須賀市や姉妹都市などの高校生が、自分たちの住むまちや学生生活について英語で発表し交流する国際ユースフォーラムを開催しました。ブレスト市、メッドウェイ市の学生、メッドウェイ市の姉妹都市である伊東市の高校生、横須賀市の派遣学生、横須賀市の高校生がプレゼンテーションを行いました。

[プレゼンテーション]



ブレスト市学生



メッドウェイ市学生



横須賀市の派遣学生



三浦学苑の高校生

[交流会]



参加者全員でピンポン玉リレー



歓談・交流

◎受け入れ家庭行事

家族の一員として迎え入れてくれたホストファミリーのおかげで日本の日常生活を体験することができ、横須賀での滞在がより楽しく思い出深いものになりました。



フランスの家庭料理を
ホストファミリーに紹介



山梨へ桃狩り



軍港めぐりツアーに参加



通い続けた銭湯



家族で餃子作り



小田原城にて



ホストファーザーと腕ずも
...



ホストシスターとベイブレードで対戦

(4) 受け入れ学生の感想文

◎コーパスクリスティ市

◆ダラス・リズカノ Dallas LIZCANO

My visit to Japan was 2 of the best weeks of my life. Being able to explore another part of the world so closely and live with locals was amazing. I learned so much about the world and about myself while visiting. My host family was very welcoming and hospitable, and they taught me many things about their country. I'm very grateful that I had the chance to show the city of Corpus Christi to foreign exchange students. Although it felt like time went by extremely quickly, I feel like it was time well spent and I made memories that will last a lifetime. Whether it was watching fireworks in Kurihama, exploring the island of Sarushima, taking a boat around Yokosuka, or going to the top of the tallest tower in Yokohama, I had a great time with all my fellow exchange students. I feel as though my view of the world was expanded and I made many life long friends throughout the program. I'm very hopeful that I will be able to visit Japan again eventually and continue learning more about the world.

【和訳】

私の日本訪問は、人生で最高の2週間でした。世界の別の場所をこれほど身近に探検することができ、地元の人々と一緒に暮らすことができたのは素晴らしいことでした。私は訪問中に世界について、そして自分自身について多くのことを学びました。私のホストファミリーはとても温かく迎えてくれて、彼らの国についてたくさん教えてくれました。また派遣学生にコーパスクリスティの街を案内する機会をもてたことにとても感謝しています。時間が非常に早く過ぎたように感じましたが、とても充実した日々を過ごし、一生の思い出ができました。久里浜で花火を見たり、猿島を散策したり、船に乗ったり、横浜で一番高いタワーの頂上に行ったり、交換学生のみなどと楽しい時間を過ごしました。姉妹都市交換学生事業を通じて自分の世界観が広がり、生涯の友人がたくさんできました。いつかまた日本を訪れて、世界についてさらに学び続けることを望んでいます。

◆ユリ・エストラダ Yuri ESTRADA

I had the wonderful opportunity to be able to participate in the Yokosuka, Japan and Corpus Christi, Tx Sisters City Foreign Exchange Program. The 16 hour flight was very exhausting, but very amazing especially since it had been my first time in a plane. Once we landed in Haneda I couldn't believe it, everything was instantly different especially with how welcoming everybody instantly made us feel. During the two weeks I stayed in Japan I was able to experience their unique culture and visited many museums! I tried many of their dishes and although I had never really liked seafood, I was open to try everything they offered, and everything was very delicious.....especially the ramen and seafood! I also learned how to use chopsticks! I was able to stay with an amazing host family that taught me many traditions and explained them to be in a manner I understood. I was also able to attend three days at Yokosuka Sogo High School. While being at school I learned many things about their everyday school life, and was able to attend classes with them. Although I did not

understand much, my buddies made sure I learned a few Japanese words that up to this day, I remember most of them by memory! We had a fixed schedule planned for every day of our stay. Although we had a pretty busy schedule I still had plenty of time to spend with my host family and enjoy our evenings together. I was able to tour the city with other Japanese students that were going to visit other countries as well. This allowed me to form many new friendships and not feel homesick. This trip to Japan was very educational and memorable. Two weeks was not enough time, I wish I could have stayed longer especially because I would have liked to experience many other things. I am very grateful to have had the opportunity to visit Japan especially because Japanese are one of the most welcoming and friendliest people one could ever meet. I look forward to one day visiting Yokosuka again! I hope that other students also get the opportunity to learn about other cultures just like I did with this Student Exchange Program.

【和訳】

横須賀市とコーパスクリスティ市の姉妹都市交換学生事業に参加できる素晴らしい機会に恵まれました。16時間のフライトはとても疲れましたが、初めての飛行機はとても素晴らしかったです。羽田に着くと、信じられないほど、すべてが違いました。特に、みんなが歓迎してくれたことに感動しました。日本に滞在した2週間で、日本独特の文化を体験し、たくさんの博物館・美術館を訪れることができました。

私は日本の料理をたくさん食べました。私は魚介類がそれほど好きではなかったのですが、出されたものはすべて食べてみたいと思いました。そして、すべてがとても美味しく、特にラーメンと魚介類がおいしかったです！お箸の使い方も習いました！私は素晴らしいホストファミリーの家に滞在することができ、彼らは多くの伝統を教えてくれ、私が理解できるように説明してくれました。

また、私は横須賀総合高校に3日間通い、学校生活について多くのことを学び、一緒に授業を受けることができました。授業はあまり理解できませんでしたが、バディが日本語の単語をいくつか教えてくれて、今でも覚えています。

滞在中、毎日決まったスケジュールがあり、かなり忙しいスケジュールでしたが、夜はホストファミリーと過ごす時間は十分にありました。他の姉妹都市を訪問する予定の派遣学生も一緒に市内を見て回ることができたので、ホームシックになることなく、多くの新しい友情を築くことができました。

今回の日本への旅はとても勉強になり、思い出に残るものでした。2週間では時間が足りませんでした。もっと長く滞在し、他にもいろいろ経験したかったです。特に日本の人たちはこれまで出会った人の中で最も私たちを歓迎してくれ、非常にフレンドリーだったので、日本を訪問する機会を持てたことにとても感謝しています。いつかまた横須賀を訪れる日を楽しみにしています！私がこの交換学生事業で行ったように、他の学生たちにも異文化について学ぶ機会が得られることを願っています。

◎ブレスト市

◆マニュエル・ポルトレス=ゴアノ Manuel PORTOLES-GOINEAU

I think I spend in Yokosuka some of the best weeks in my entire life. I think I can't measure of much this exchange bring to me. I discovered a whole new culture, traditions and a very different daily life,

but also brings me a lot of friends. I was surprised every single day in the trip because of all the food, architecture like everything is really different. We did so many things in Yokosuka that I can't even remember the order of the activities. I think my favorite one was wearing the kimono, I felt so classy in these. Even if before Japan was my dream destination and I was really interested into that country, I tried things I wouldn't try normally, like natto that has strange but good taste.

The people in Japan were so kind, my host family welcome me so warmly, at the end of the two weeks I felt like I was part of the family. I will never forget all the time I spend with Ayu, Margot, Mana, Shota, Robert, Ryu, Alex and all the people that I met during this trip. And I loved Japan so much that I promise I will come back one day.

【和訳】

横須賀で過ごした数週間は、人生の中でも最高の数週間だと思います。この交流が私にもたらしたものは計り知れないと思います。新しい文化、伝統、まったく異なる日常生活を発見しました。同時にたくさんの友達にも出会うことができました。食べ物も建築も何もかもが本当に違うので、毎日驚きました。横須賀では順番も思い出せないくらいたくさんのごちそうをしました。私のお気に入り着物は、着てみるととても上品さを感じました。以前は日本が夢の旅行先で、とても興味があったので、普段は試さないような納豆にも挑戦してみました。納豆は変わっていたけれど味は良かったです。日本人々はとても親切で、ホストファミリーは私をとてとても温かく迎えてくれて、2週間が終わる頃には自分が家族の一員になったように感じました。愛結、マルゴ、万奈、翔太、ロバート、竜、アレックス、そして日本で出会ったすべての人たちと過ごした時間は決して忘れません。私は日本が大好きになったので、いつか戻ってくることを約束します。

◆マルゴ・プレゼネック=ポルト Margot PLOUZENNEC-POLTE

This two weeks I spend in Japan were maybe the two most extraordinary weeks of my life. I was kinda stressed about discovering a new country for the first time, with a culture so different, but every person was so kind, and so ready to share great moments and to talk about our cultures, it just felt like a dream. Thanks to the city and the host family, we did so many things and discovered so many places. I will keep this travel in mind for a very long time. I'm so happy and grateful to had been able to discover a little piece of a so beautiful country, with a wealthy culture and so welcoming people. I'm sure I will return one day.

【和訳】

日本で過ごした2週間は、おそらく私の人生で最も素晴らしい2週間だったと思います。初めて訪れる国、文化の異なる国に少し緊張しましたが、みんなとても親切で、素晴らしい時間を共有し、お互いの文化について語りあい、まるで夢のようでした。横須賀市とホストファミリーのおかげでたくさんのごちそうをして、いろいろな場所に行く事ができました。この旅はずっと私の心に残るでしょう。私はこの美しい国のほんの一部ではあるけれど、豊かな文化ととても親切な人々に出会えたことをうれしく思い感謝しています。いつか必ず戻ってきます。

◎メッドウェイ市

◆ロバート・ゴッドフリー Robert GODFREY

I had always looked at Japan from afar as if it were a wonderland, and went expecting to be disappointed; I was not. My exchange showed me the aesthetic and numerous wonders of Japan; that every view was like a scene from a movie made me fall in love with Yokosuka and Japan as a whole -whether it be the urban beauty of skyscrapers that I visited such as the Tokyo tower, Skytree and Yokohama skyscraper or the rural, traditional parts of Japan such as Hakone, which Ryu's family brought me to, where we did the zip line near Mt Fuji, overlooking Shizuoka.

And of course the food did not disappoint. Again with Ryu's family we went to the Ramen museum that looked incredible and was so delicious, I had three bowls and now refer to the Ramen museum as Tengoku.

However, what evolved my trip from amazing to truly special was the people I met along the way (including the incredible organisers). Often after organised events such as origami, calligraphy or the Youth forum we would have fun in a group and go to shops, the game-centre or fireworks. These moments were some of my favourites as it made me feel truly one with the already incredible Japanese environment, this is why this exchange held the best week of my life so far.

Finally, I cannot stress enough the kindness of the Yamada family; they made sure we were always fed like kings and did so much for us, (I especially enjoyed journeying to the Sento every evening to bathe and getting ice cream afterward at the 711). By the end, I was very sad to leave Japan and my host family said goodbye, saying we love you, please come again. I definitely will.

【和訳】

私はいつも遠くから日本を不思議な場所のように思い、行ってみるとがっかりするかもしれないとも予想していましたが、そうではありませんでした。私は交換学生事業を通じて、日本の美しい数々の驚きを体験することができました。東京タワー、スカイツリー、横浜の超高層ビルなど都会的な美しさも、竜の家族が連れて行ってくれた箱根などの伝統文化を感じる田舎の地域も、どの景色も映画のワンシーンのようで、横須賀市と日本が大好きになりました。箱根旅行では、静岡を見渡せる富士山の近くでジップラインをしました。日本の食事も期待を裏切りませんでした。竜の家族と一緒にラーメン博物館にも行きました。見た目も素晴らしく、とても美味しかったので、3杯も食べました。今ではラーメン博物館を「天国」と呼んでいます。

しかし、私の旅行が驚きから特別なものになったのは、企画してくださった方々を含む出会った人々のおかげでした。折り紙、書道、ユースフォーラムなどのイベントの後は、グループで楽しんだり、お店やゲームセンター、花火に行ったりしました。これらは私が最も好きな時間で、日本の一員になったように感じました。これが、今回の交流が、私の人生で最高の2週間となった理由です。

最後に、山田家の優しさについてはどれだけ説明しても足りないくらいです。いつも私たちに豪華な食事を用意して、たくさんのことをしてくれました。私は毎晩銭湯に行って、その後、セブンイレブンでアイスクリームを買うのが特に楽しかったです。最後には日本を離れるのがとても悲しくなり、ホストファミリーは「大好きだよ、また来てね」と言ってくれました。必ずまた来ます！

◆アレクサンダー・デイビス Alexander DAVIS

This summer, starting the 29th of July, I was lucky enough to have the opportunity to visit Japan, more specifically Yokosuka. Firstly, I would like to express my gratitude to everyone in Yokosuka who worked so hard to make this exchange possible, from those in the background to the people who guided us through our stay.

This is a valued experience I will never forget and will always have fond memories of. During my stay, I was lucky enough to tour around Yokosuka, which I found to be a beautiful city.

This first day gave me a taste of Japan and Yokosuka and what was to come. As part of our days planned by the incredible people in the Yokosuka exchange group, I was lucky enough to visit Asakusa and Tokyo Skytree. The views from the Skytree were the most beautiful I have seen and being able to overlook the city was incredible. We were also able to make a traditional Japanese rice snack which was a great introduction to Japanese culture.

Due to the people who planned the exchange, I was also able to make some friends for life and make memories with them, such as lighting fireworks, that I will never forget. I also thank my incredible host family who would have done anything for me to make my experience more memorable. The Chiba family were so welcoming and kind, making my experience in Japan extra special. This exchange experience has made me think about the opportunity of going to university in Japan when I leave school, so now I intend to learn Japanese.

I fell in love with Japan and Yokosuka so I would like to make it happen. Thank you everyone.

【和訳】

この夏7月29日から日本、横須賀を訪れる機会に恵まれました。まず初めに、この交換学生事業を実現するために尽力して下さった横須賀の皆様、滞在中お世話して下さった皆様に感謝の意を表したいと思います。

姉妹都市交換学生事業に参加したことは、私にとって忘れられない貴重な経験であり、楽しい思い出です。滞在中、横須賀の市内見学をし、とても美しい街だと思いました。

初日は、日本と横須賀の魅力を感じることができ、これからの滞在に期待を抱くことができました。横須賀国際交流協会の人々が計画してくれた日程の一環として、浅草と東京スカイツリーを訪れることができ、幸運でした。スカイツリーからの眺めは私が今まで見た中で最も美しく、街全体を見渡すことができたのは信じられないほどでした。また、伝統的な日本の米のおやつを作ることでもでき、日本文化を知るよい機会となりました。

交流を企画して下さった方々のおかげで、一生の友達もでき、花火をするなど忘れられない思い出を作ることができました。また、私のこの経験をより良い思い出にするためにどんなことでもしてくれた素晴らしいホストファミリーにも感謝します。千葉さん一家はとても歓迎してくれて親切で、私の日本での経験は特別なものになりました。この交流の経験をきっかけに、学校を卒業したら日本の大学に進学したいと考えるようになり、これからは日本語を勉強するつもりです。

私は日本と横須賀が大好きになったので、日本の大学進学を実現したいと思っています。皆さん、ありがとうございます。

4 交換学生派遣事業

(1) 姉妹都市への派遣学生

横須賀市の交換学生として、6名の高校生を姉妹都市に派遣しました。学生たちは事前研修や姉妹都市学生の受け入れ事業などで協力し合い、姉妹都市では公式行事や横須賀市の紹介、ホストファミリーとの交流、自分たちで決めた個々のテーマの調査など、横須賀市の代表として、親善大使の役割を立派に果たしてきました。



◎派遣学生の感想

◆石渡快（コーパスクリスティ市派遣）

横須賀市の親善大使としてコーパスクリスティ市に行き、様々な経験ができました。ホストファミリーや現地の人たちの温かさを感じました。この経験を忘れず感謝を胸に、将来外国で働くという目標に向けてより一層頑張っていきます。

◆宮崎由奈（コーパスクリスティ市派遣）

今回の派遣で、私は一生大切にしたいと思える経験をし、いろいろな方々に出会えました。勇気を出してこの事業に参加して、たくさんの初めての体験ができました。この事業を通して英語やほかの言語に興味をわき、留学をしたいと思うようになりました。たくさんの言葉を覚えていろいろな人たちと友達になりたいです。

◆後藤愛結（ブレスト市派遣）

この事業を通じて、多様な文化と価値観に触れることができました。自己表現を大切にし、異なる意見を尊重する姿勢や、困っているときに親切に助けてくれる人々の温かさに感銘を受けました。今回の経験を今後の生活の糧にしていきたいです。

◆横田万奈（ブレスト市派遣）

横須賀市の姉妹都市の同世代の学生たちと交流する機会はとても貴重な経験でした。この事業を通して、海外との考え方の違いや文化の違いを学んだ事で、自分の居場所は日本に留まらず世界へ広げることでもできる事を実感しました。この一生に一度の経験で出会った、たくさんの方との繋がりを絶やす事なく「世界とつながる仕事」という将来の夢に向けて全力投球し続けたいと思います。

◆明石竜（メッドウェイ市派遣）

この事業に参加して、今までに見たことのない世界を見ることができ、新たな考え方を知ることができました。この素晴らしい経験をこれからの人生に活かし、より自身を高めていきたいと考えています。

◆古山翔大（メッドウェイ市派遣）

この事業は、異なる国や文化を直接体験できる貴重な機会だと感じました。イギリスだけでなく、他の国の学生とも交流できて、相互理解や友情が深まりました。日常生活を共有することで、言葉以上に文化や価値観を学び、自分自身の視野が広がりました。派遣を通して築いた国際的なつながりは、一生ものの財産です。

(2) 研修・派遣日程

日程			研修内容等
3月	25日	月	応募者説明会
4月	14日	日	第1次選考
5月	12日	日	第2次選考
	29日	水	第1回研修 オリエンテーション、前年度派遣交換学生の体験談
6月	5日	水	第2回研修 英会話、2分間スピーチ、調査テーマについて、報告書用写真の撮り方
	8日	土	第3回研修 日本文化体験教室に参加
	12日	水	第4回研修 英会話、フランス語会話、2分間スピーチ、グループワーク
	19日	水	第5回研修 英会話、1分間スピーチ、グループワーク
	23日	日	派遣学生保護者・ホストファミリー説明会
	26日	水	市長、市議会正副議長への出発あいさつ 第6回研修 英会話、グループワーク、日本文化体験教室で撮影した写真の評価
7月	3日	水	第7回研修 最終説明会
	13日	土	水師提督ペリー上陸記念式典出席
			米国ロードアイランド州の大学生と交流
20日	土	コーパスクリスティ市への派遣学生出発 (8月4日まで)	
8月	5日	月	国際ユースフォーラム
	11日	日	ブレスト市への派遣学生出発 (8月25日まで)
	12日	月	メッドウェイ市への派遣学生出発 (8月26日まで)
9月	11日	水	市長、市議会正副議長への帰国報告
			第8回研修 報告書作成
10月	2日	水	第9回研修 報告書作成

- ・ 7月から8月の姉妹都市からの交換学生受け入れ期間中は案内役として活動
- ・ 帰国後は、横須賀市や横須賀国際交流協会の行事等にボランティア等として参加
 - 令和6年10月20日 キッズフェスティバル
 - 令和6年11月16日 ヴェルニー・小栗祭式典
 - 令和7年2月23日 ジャパンフェスティバル イン よこすか

(3) 研修

横須賀市の派遣学生は、派遣前に7回、帰国後に2回、計9回の研修に参加しました。英会話だけでなく、横須賀市の魅力や日本の文化、プレゼンテーションの方法、写真の撮り方などを学びました。各自が興味を持つ調査テーマを決め、現地のホストファミリーや関係者に連絡を取り、事前調査を行い、派遣に向けた準備をしました。また、派遣前後の研修を通じて、協力し合いながら切磋琢磨し、励ましあうことで、チームワークを養いました。

◎オリエンテーション

6名が初めて顔を合わせ、研修・派遣日程を確認し、交換学生の役割や現地での調査など基本的な事項について説明を受けました。その後、前年度の派遣学生から直接体験談を聞きました。各都市に分かれ、姉妹都市での活動内容や有意義な滞在のために必要な姿勢や考え方、持参すべき便利な物、そしてホストファミリーへのおすすめのお土産など、様々なアドバイスをもらいました。



◎日本文化体験教室参加

姉妹都市で日本の文化を紹介するため、横須賀国際交流協会が主催する日本文化体験教室に参加しました。生け花、茶道、書道、折り紙、琴などに挑戦しながら、英語での説明方法も学びました。

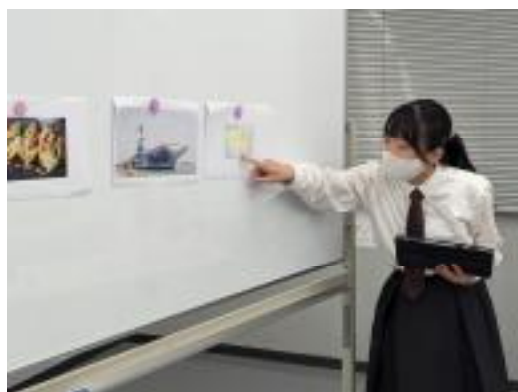


◎グループワーク

毎年派遣学生は、姉妹都市から来る学生の案内役を務めています。グループワークでは、全員で案内先の歴史や概要を調べ、全員でそれをまとめて、英語ガイド文を作る作業を行いました。そして、どこでどのようにガイドをするか、だれが担当するかまで決めました。活発に意見を出し合い、しっかりとまとめ上げることができました。



◎2分間スピーチトレーニング



2分以内で伝えたいことをまとめて発表する練習をしました。制限時間内にまとめることで、聞いている人に、より興味を持ってもらえるような発表の仕方を考え、実行しました。時間が足りなくなったり、逆に余ったり、言いたいことがうまく伝えられなかったり、時間配分や人前で話すことの難しさを実感しながら、要点を整理して意見を述べるトレーニングを行いました。

◎英語とフランス語のレッスン

横須賀市のアメリカ人とフランス人の国際交流員の指導のもと、全4回のレッスンを受けました。自分や家族の紹介、横須賀市の観光スポット、日本文化の紹介に加え、滞在先で体調を崩した場合の症状を説明するロールプレイなど、姉妹都市での会話を想定して取り組みました。アメリカ人ボランティアの参加もあり、マンツーマンでの練習ができました。学生はとても明るく積極的で、最初のレッスンから笑い声が聞こえました。ボランティアで参加していた米海軍横須賀基地内のキニックハイスクールの高校生が緊張しているのを感じて、それをときほぐそうといろいろと質問する姿もありました。質問に対して受け身にならず、積極的に質問し、自ら英語で発信する練習を何度も重ねました。

また、フランス人の国際交流員からはフランス語の挨拶や自己紹介の方法を教わりました。アメリカ・イギリスに派遣される学生も、ブレスト市の学生の受け入れに備え、フランス語での自己紹介や、「元気?」「いくらですか?」「いつ、どこで、誰が、何を、どうした」などを言えるように練習しました。



◎写真の撮り方

交換学生の役割の一つは、自身の体験を多くの人に伝えることです。そのためには、報告書や写真展等で使用する写真を撮影します。日本文化体験教室で撮影した写真を持ち寄り、参加者全員で評価し合い、わかりやすく伝わる写真を撮る方法を学びました。どの場面でどのような活動を行ったのかがわかるように撮影することや、お互いに撮り合って自分自身が写るようにすることなどを確認しました。



◎出発あいさつ・帰国報告

姉妹都市への出発前に、市長や市議会議員、副議長を表敬訪問し、派遣に向けた抱負や意気込みを伝える機会がありました。市長、正副議長から励ましの言葉をいただき、市を代表して派遣されることを再認識しました。

帰国後も、姉妹都市で経験したことや、感じたこと、調査したことなどを市長、正副議長に報告しました。市長からは「どんどん外に出て経験を積んでほしい」と励まされ、今回の経験を生かして、いろいろなところで横須賀を紹介したり国際理解を深めたりする役割を担っていく思いをあらたにしました。



(4) 派遣学生報告書

Corpus Christi

コーパスクリスティ市

派遣期間： 7月20日～8月4日

石渡 快 横須賀学院高等学校 1年
宮崎 由奈 神奈川県立追浜高等学校 2年



コーパスクリスティ市、姉妹都市事業担当者と共に

日付	活動概要
7月20日(土)	羽田空港発 コーパスクリスティ市着
7月21日(日)	ウェルカム・レセプション
7月22日(月)	ショッピング(ダイブ&バスターズ)
7月23日(火)	市長表敬訪問、市役所観光
7月24日(水)	ボーリング、ゲームセンター(石渡) / サン・アントニオ市観光(宮崎)
7月25日(木)	レキシントン博物館、テキサス州立水族館観光
7月26日(金)	ミュージカル鑑賞(The 25th Annual Putnam County Spelling Bee)
7月27日(土)	ショッピング(石渡) / 遊園地(宮崎)
7月28日(日)	日本料理パーティー
7月29日(月)	テキサス A&M コーパスクリスティ大学見学
7月30日(火)	野球観戦
7月31日(水)	カヤック体験
8月1日(木)	フェアウェル・レセプション
8月2日(金)	サン・アントニオ市観光(石渡) / ショッピング(パドレイランド)(宮崎)
8月3日(土)	コーパスクリスティ市発
8月4日(日)	羽田空港着



エストラーダ家

中央：ユリ（横須賀市に滞在した交換学生）

ユリ左：マリア（ホストマザー）

ユリ右：ファウスト（ホストファーザー）

ユリの5人の兄弟たち：

カタリナ、リアス、マテオ、サムエル、ファウスト

■たくさんの驚きと当たり前

コーパスクリスティでの生活は驚きでいっぱいだった。その中でも特に衝撃的だったことがいくつかある。まず、基本的に車移動だったことだ。徒歩1分ぐらいの場所でも必ず車で移動した。次に、ホストファミリーのエストラーダ家を始め、多くの人がスペイン語と英語を話すこと。2言語を自由自在に使い分けられる人たちがたくさんいた。更に、日本では多くの人が5分前行動が当たり前だがコーパスクリスティでは物事が遅れることが当たり前だったり、子供の寝る時間が真夜中12時を過ぎることが当たり前だったり、時間の感覚の違いに驚いた。このような数え切れない「驚き」と「当たり前」に出会った。私の「当たり前」は必ずしも他の場所では通用しないことを改めて実感した。

■この経験を活かして



野球観戦

コーパスクリスティでの生活の中で感じたのは自分から行動し、想いを伝えることの大切さだ。エストラーダ家では基本スペイン語で会話している。そのため到着して初めの数日は全く理解できない言語に戸惑った。しかしコミュニケーションを取りたいと思ったため、「何て言ってるの？」や「英語で話してくれない？」などと積極的にお願いをするように心がけた。すると、自然と会話の内容を喜んで教えてくれるようになった。さら

に自分のやりたいこと、行きたい場所などを伝えると連れて行ってくれた。他にもフランスから来ていた交換学生と英語で積極的に会話をしてみたら仲良くなれたことなど、自分から伝えなければ、行動しなければわからないことがたくさんあった。私は初めての人と話すのがとても苦手だ。しかし、話してみると変わることがあることを肌で感じた。この経験を忘れず、これからは少し勇気を出して自分から話しかけ、自分のコミュニティを広げられるようにしようと思う。

■感謝を胸に

私は英語を話せるようになりたくて、アメリカに行きたかった。この派遣が決まり、驚きと同時に、とても嬉しく、楽しみになった。そんな気持ちの中、アメリカ、コーパスクリスティに向かった。そこで出会ったのは、右も左もわからない私を受け入れてくださったホストファミリーのエストラーダ家だった。私の現地調査を手伝ってくれたユリとダラスの友達、そして約1ヶ月間、誰よりも長い時間一緒に過ごしたバディのユリ、本当にありがとう。この素晴らしい経験ができたことに感謝し、またいつかコーパスクリスティを訪れることを心に決め、帰路についた。

■調査「横須賀市とコーパスクリスティ市の高校生の外国語学習」について

○調査動機

日本の高校では外国語学習と言えば英語だがコーパスクリスティでは何語を学習しているのか

気になったため。また、それぞれの高校生外国語学習に対する目的や意識を知り、私たちはどのような意識で外国語学習に取り組めばいいか、考えるきっかけになると思ったため。

○調査方法

横須賀学院高等学校の私のクラスメイト 36 人とコーパスクリスティの高校生 20 人にアンケートを行った。

○結果 ①力を入れて学習している外国語は何語か

コーパスクリスティ市の高校生	
スペイン語	85%
イタリア語	5%
日本語	5%
ヒンドゥー語	5%

横須賀市の高校生	
英語	86%
韓国語	5%
なし	9%

②どうして①の言語を学習しているのか

学校の授業で習っているからや、テストに受かるためという理由はどちらの国にもあった。

〈コーパスクリスティ市の高校生の理由〉

- ・家族全員がそれを知っているのに、私は知らないから。
- ・スペイン語しか話せない人の多くが英語を学習中であることを知っている。（スペイン語を学べば）流暢に話せなくても彼らとコミュニケーションをとるのはずっと簡単だから。

〈横須賀市の高校生の理由〉

- ・受験で利用するから。
- ・使っている人口（15 億人）が多いし、学校の主要 5 教科にも入っているから。

③外国語を勉強するのはどのくらい好きか？

コーパスクリスティ市の高校生	
大好き	26%
好き	49%
好きでも嫌いでもない	20%
嫌い	5%
大嫌い	0%

横須賀市の高校生	
大好き	14%
好き	32%
好きでも嫌いでもない	28%
嫌い	15%
大嫌い	11%

○考察

①、②において横須賀市の高校生とコーパスクリスティの高校生の違いが大きく出た。コーパスクリスティの高校生は主にスペイン語を学習している。そして家族が話すから勉強しているという理由はコーパスクリスティの特徴だと思う。この他にもコーパスクリスティの高校生には外国語を学ぶことをどう思うか聞いた。他の国の人とコミュニケーションが取れて人生に役立つ、他の国の文化なども学べる、という考えがあり、外国語学習に対して肯定的な考えが多かった。私達は勉強しても話す機会がないため、学んでいることに意味を感じなかったり、自分の英語に自信がなかったりする。そのため③の結果からもわかるように英語を勉強することが好きではない人が多い。このことから英語を学ぶ際には楽しい学び方を考えていきたい。そして、他の国の人々とコミュニケーションを取るだけでなく、その国の文化を理解するためにも外国語学習を重視していきたい。さらに、将来国際関係の仕事に就くという目標を忘れず努力し続けていきたい。



リズカノ家(写真左から)

クラウドディア：料理上手で笑顔が素敵なホストマザー

ラミロ：とても優しくて釣りが大好きなホストファーザー

ダラス：落ち着いていて思いやりのある交換学生

ミア：日本の漫画が大好きな明るくて面白いホストシスター

■日本とアメリカの家の大きさ

私がリズカノ家に到着し、一番に驚いたことは家の大きさだ。私の部屋には、クイーンサイズのベッド、壁掛けの大きいテレビ、大きな鏡のドレッサー、さらに扉を開けるとシャワー付きバスルーム、トイレ、パウダールームまであった。まるでホテルに宿泊しているかのような、完全にプライベートが守られている空間であった。「海外の人は個人主義」という話を聞いたことがあったが、その文化の違いを肌で実感した。初めは、私の日本の家との大きさにギャップを感じ、孤独だと思ふこともあったが、すぐに慣れた。

■みんな友達

現地での活動では、英語だけでなくフランス語に触れる機会もあり、新鮮な体験ができた。ある日、フランス人の学生と彼のバディのアメリカ人の学生と私達交換学生のみんなでフランス語と日本語についての単語ゲームをした。全員が不慣れな言語なので苦戦しつつも、大盛り上がりした。また、家庭でスペイン語を話す子も多く、とても興味深い環境だった。



バディとその友達と

■変わった価値観

私がアメリカに行くなんて一年前の自分には想像もできなかった。英語も話せないし、留学は、夢のまた夢だと考えていたので、大学の進路についても歴史系の学部に行くのだろうと漠然と思っていた。しかし、この経験を通して、今は留学制度の整っている大学を調べている。国際系や英語の学部にも興味が湧いており、大学では長期留学をしたいと考えている。価値観や考え方がこんなにも変わるとは自分でも驚きだ。英語はまだ拙いが、去年の自分に比べて自信を持って話せるようになったのも、この交換学生事業のおかげだ。いつか今回の姉妹都市滞在でできた海外の友達と再会したいと願っている。

■調査「もったいないの意識」について

○調査動機

私のアルバイト先は米海軍基地の近くにあり、外国人のお客が多く来店する。食べ残しの持ち帰り容器（ドギーバッグ）に対して意識の違いがあり、海外のお客は自然に容器を頼むが、日本人のお客は料理を残したまま帰る。この違いに興味を持ち、日本とアメリカの「もったいない意識」や飲食店での持ち帰り容器（ドギーバッグ）の利用状況を調べることにした。これは、SDGsにも関連するフードロス問題の解決への糸口になると考えていた。

○調査方法

追浜高校のクラスメート 13 名、コーパスクリスティの高校生 15 名にアンケートに協力してもらった。外食先では持ち帰りの容器を店でもらって使ったことがあるかを調査した。また飲食店に持ち帰りの容器が用意されているかも調査した。

○結果

	①外食先で食べ残しを持ち帰りますか？		②持ち帰り容器（ドギーバッグ）を使用していますか？	
	追浜高校	コーパスクリスティ高校生	追浜高校	コーパスクリスティ高校生
はい	15.4%	75.0%	23.1%	93.8%
いいえ	84.6%	12.5%	76.9%	6.2%
その他		12.5%		

③持ち帰り容器（ドギーバッグ）の用意のある店舗

日本 シシロー、すき家、サイゼリヤ、CoCo 壺番屋

アメリカ Rudys Whataburger, la panaderia, Olive garden, Texas Roadhouse

④持ち帰り容器をなぜ使わないのか（日本人に質問）

- ・周りが使っていないから。
- ・自分だけ使うのは恥ずかしいから。
- ・そもそも持ち帰り容器（ドギーバッグ）の存在を知らない。

○考察

①では、やはり日本人はほとんど食べ残しを持ち帰らないということが分かった。②では、アメリカの持ち帰り容器の使用率に比べ、日本ではあまり普及していないということが分かった。持ち帰り容器を使用していない理由は、衛生面ではなく、ただ単に「周りが使っていないから」「自分だけ使うのは恥ずかしい」などの理由が主だった。日本でなかなか持ち帰り容器が普及しないのは日本人の性格も関係していると言える。

③では、意外と日本も持ち帰り容器を用意していることが分かった。アンケートをとった店舗で持ち帰り容器の使用頻度を聞いたところ、「滅多にない」「ごくたまに」などの回答が多かった。店舗側は用意しているが、あまり使われていないのが現状だ。

アメリカはどここの店に行っても持ち帰り容器は当たり前のように用意されていて、使用されていた。私も食事に行った6店舗のうち、5店舗で持ち帰り容器を使用した。日本では持ち帰り容器の認知度が低いことに加え、日本人特有の「他人と違うことをする不安」が、持ち帰り容器の使用の妨げになっているのではないかと思う。アメリカでは、ほぼ100%の使用率で食べ残しを持ち帰り、家で食べるという文化がある。食べ残しを当たり前で捨てる常識より、持ち帰り、少しでもフードロスが減らそうとする意識があった方が、今後の世界を考えた時、得策だと思う。そのためにも日本では、持ち帰り容器の意義や提供方法を周知し、お客様に自然に提案できるようにして、持ち帰り容器の使用を浸透させることが必要であると思う。

Brest

ブレスト市

派遣期間： 8月11日～25日

後藤 愛結 横浜市立横浜商業高等学校3年

横田 万奈 法政大学国際高等学校3年



パドル体験

日付	活動概要
8月11日(日)	羽田空港発
8月12日(月)	ブレスト市着、ブレスト灯台
8月13日(火)	ブレスト城見学、市内観光、地元の音楽フェスティバル、花火
8月14日(水)	凱旋門観光/ モンパルナス見学(後藤) モン・サン＝ミシェル、モネの庭(横田)
8月15日(木)	オペラ座、ノートルダム大聖堂(後藤) / モンマルトル、ルーブル美術館、エッフェル塔(横田)
8月16日(金)	エッフェル塔、凱旋門、ルーブル美術館 / セーヌ川クルーズ(後藤)
8月17日(土)	フットボール観戦、ホームパーティ / ハンバーグ作り(横田)
8月18日(日)	灯台巡り / ビーチバレー(横田)
8月19日(月)	オセアノポリス、ピクニック、市内観光
8月20日(火)	ボタニカルガーデン見学、地元の市場、地元のスーパーマーケット / ガレット作り(後藤)
8月21日(水)	折り紙、パドル・ヨット体験 / バケット作り(後藤)
8月22日(木)	副市長表敬訪問、ガレット作り、ボーリング
8月23日(金)	お別れパーティー
8月24日(土)	ブレスト市発
8月25日(日)	羽田空港着



ポルトレス＝ゴアノ家（写真左から時計回りに）
 アレクサンドラ：折り紙が大好きなホストマザー
 パトリス：料理上手なホストファーザー
 ドミニク：家族思いのグランドマザー
 ダニエル：語学堪能で明るいグランドファーザー
 ステラ：日本のアニメが大好きなホストシスター
 私

マニュエル：コミュニケーション能力が高い交換学生

■エコの国

私がブレスト市に到着して、最初に感じたのはリサイクルに対する考え方の違いだ。日本ではプラスチックストローから紙ストローへの変更やレジ袋有料化が進められているが、フランスでも同様の取り組みが行われている。レストランや家庭では、ストローはパスタや竹など、日本では見かけない素材のものが多く使用されていた。スーパーマーケットやパン屋ではプラスチックのレジ袋の代わりに紙袋を使っていた。また、ブレスト市では生ゴミを捨てることが条例で禁止されており、各家にコンポスト（家庭から出た生ごみを土と混ぜて入れることによって、土の中の微生物等の働きにより、生ごみを堆肥に変える容器）が設置されていた。レストランのような公共の場だけでなく、各家庭でもゴミの削減に取り組む姿勢が見られ、一人一人が環境に配慮して生活していることが伺えた。

■時間の進み方



自宅の庭で夕食前におやつ

ブレスト市で衝撃を受けたのは、時間の進み方の違いだ。フランスは緯度が高く、陽が落ちる時間が遅いため夜9時近くまで外が明るかった。そのため、日本と比べて1日に活動できる時間が長く、時の流れが遅く感じられた。例えば、日本では夜8時には陽が暮れているが、フランスではまだ明るい家のお庭でお菓子を食べたり、ミニゲームをしたりしてくつろぐことができた。また、夜10時からようやく暗くなり始めるため、お祭りの花火は夜11時から打ち上げられていた。

■他人への思いやり

ブレスト市内を観光する時にバスを利用することが何度かあった。バスに乗るとすぐに運転手さんが「Bonjour」と挨拶をしてくれた。また、レストランに行くと必ず美味しく召し上がれの意味である「Bon appétit」と声掛けをしてくれた。これらの挨拶は必ず目を見て行ってかれており、運転手さんや店員さんからの思いやりを感じることができた。

■調査「観光地の課題」について

○調査動機

近年、コロナウィルスの影響を受け横須賀市を訪れる観光客の数が減ってしまっている。一方ブレスト市では、コロナウィルスが流行し



ブレスト城にて

たにもかかわらず特定の時期に多く観光客が集まっていることが分かった。ブレスト市の観光地で行われていることが、横須賀市に観光客を呼び込むための助けになると思い調査を実施した。

○調査方法

ブレスト城で働く人とブレスト市の高校生8人、横須賀市観光課に観光客に関する質問をした。

○結果

質問	ブレスト城	ブレスト市の高校生	横須賀市
①観光客が最も訪れる時期はいつか	・夏(8月)	・夏 ・夏休み ・6月～9月	5月
②その時期に訪れる観光客の多さについてどう思うか、多い理由	・経済が回る ・観光客の心無い行動により、自然が破壊される	・経済に良い ・レストランや博物館、文化施設まで、地元のビジネスを後押しして良い	・ゴールデンウィークが関係していると思う ・過ごしやすい気候だから
③観光客の数に悩んでいるか	・今は特に悩んでいない	・悩んでいない ・交通量が増え迷惑だと感じる ・普段静かな場所に観光客が訪れ、雰囲気を壊してしまう。	・コロナウイルス感染拡大の影響により、減少 ・目標の1,000万人に達していない
④観光客に対してどう思うか、何か対策を行っているか	・もっと多くの観光客を呼びたいと考えている。		・酷暑による熱中症対策のため、イベント開催時期を真夏から秋に変更した
⑤なぜ多くの人を訪れると思うか	・自然が多くあるから ・過ごしやすい気候だから	・景色の良い場所が多くあるから ・海洋遺産、歴史的建造物、自然が多くあるから ・海が近く、ビーチが多いから	

○考察

①の結果から観光客が最も訪れる時期は、ブレスト市では6～9月で夏休みがあり、横須賀市は5月でゴールデンウィークがあることがわかる。また、②⑤の結果にある「過ごしやすい気候だから」というのは、ブレスト市の8月、横須賀市の5月の平均気温はどちらも20℃前後であるからだと言える。よって、どちらの都市も長期休暇があり、過ごしやすい気候である時期に多くの観光客が訪れているということがわかる。さらに、②④の結果より、観光客が多く訪れることによって引き起こされる悪い面はあるものの、それ以上に観光客がもたらすメリットも大きいと考えられる。

以上のことから私は、横須賀市に観光客を呼ぶためには、森林や海などの自然を活かしていくのがよいと考える。森や海があることで温暖化を防いだり体感温度を下げたりできると思うからだ。横須賀市ではすでに、これらを活かした取り組みを各種実施している。これらの取り組みをより多くの人に知ってもらい、参加してもらうためにはどうしたらよいのか考えていきたい。また、ブレスト市の観光地でももっと観光客を増やしたいと考えているところから、横須賀市とブレスト市が協力したイベントを企画するのもよいと考える。横須賀市では令和5年2月と12月、令和6年12月にティボディエ邸でフランスをテーマにしたイベントが開催された。令和6年11月にはウインドサーフィンワールドカップの開催にあわせて、フランスに関連するイベントが行われた。これらのイベントを筆頭に、横須賀市とフランスやブレスト市とのコラボイベントが多く開催されることを期待するとともに、それらに関わっていきたいと考える。

Every day was fresh and exciting!

横田 万奈



プレゼネック=ポルト家（写真左から）

キャロリン：優しさにあふれているホストマザー

エリン：笑顔が素敵なホストシスター

私

イウェン：英語でたくさん話してくれるホストブラザー

ヤニック：面白いジョークを話してくれるホストファーザー

マルゴ：動物が大好きな交換学生

■異文化と多様性

文化も食事も考え方も日本とは異なるフランス、ブレスト市で美しい海と灯台を眺めているとどこか横須賀に似た雰囲気も感じて、さすが姉妹都市だなと思った。それまで遠く感じていたフランスに今自分がいると思うと信じられない気持ちだった。ここでの毎日は刺激にあふれていた。ブレスト市では日本のように「周りの目を気にして自分を犠牲」にするという考え方はなく、自由に生きるという事を肌で実感した。特に「言いたいことははっきり伝える」という文化には驚いた。日本人には「察し合い」の文化があるが、それはフランスには全く通用せず、何もかも自分の意見をきちんと伝えることこそが礼儀と知った。そして自分の意見をはっきり伝えても反対される事はなく、その人の個性として受け入れるという日本との異なる価値観や習慣に触れ自分の視野を広げられた。



■一期一会



ブレスト市でホストファミリーを中心に多くの人との時間を共有した。異国の地では飲み物一つ買うのにも困っていた私を助けてくれる人がいる温かい街だった。またホストファミリーやブレストの友人を通して家族の大切さを改めて感じる事ができた。滞在中の週末に家族や友人とカードゲームをする時間はとても楽しかった。目と目を合わせて会話しながらできるゲームを通して家族との癒しの時間を過ごせた。日本に帰ってきた今も私は毎週のように家族とカードゲームをしている。横須賀市の親善大使としてブレスト市に派遣された2週間は一生に一度きりの経験であり、文化の違いや家族の大切さを改めて知る機会となった。日本国内で過ごした日々も含め、この経験は生涯にわたり貴重な思い出として刻まれた。プログラムが終わった今も出会った方達との連絡が日々続いている事は人生において大きな意味を成していくと思う。

■将来に向けて

魅力がたくさん詰まったフランスで文化や考え方、人との接し方など、今まで感じ得なかった様々な経験は私自身を成長させてくれた。そこで英語で意思疎通を図る楽しさを感じる事ができた。外国人と話す中でものの捉え方の違いなど、教科書等では学べないことを学ぶ事ができた。英語を使ってもっと話したいという気持ちがどんどん大きくなった。中学生からの漠然とした「世界とつながる仕事」という私の将来の夢に、現実味を帯びて一歩近づけたと思う。遠い存在のフランスが今や身近になったように世界とつながることの素晴らしさと大変さの両方を感じたからこそ、この夢を諦めず今できる努力を続けたい。

■調査「フランスの食事文化」について

○調査動機

ユネスコ無形文化遺産でもあるフランス料理と日本食。料理そのものや家庭内でどのように食事をとるのか興味があった。私は、その日の出来事について話しながら食事をする時間が大好きで、食を通じた家族団らんの場はどの国にも共通してあると考えたこともその背景にある。

○調査方法

無作為に年齢性別関係なく 25 人の現地の方に口頭でのアンケートに協力してもらった。

アンケート項目としては以下の結果の欄に記載されている①-④とする。

○結果

①朝食に食べるもの→たっぷりのバターを塗ったパンとコーヒー、シリアル、ジュース

②フランスでの食事ルール→テーブルセッティング、親の手伝いをするという回答が多かった。

③好きなフランス料理→ チーズ料理 10 人/クレープ 7 人/キッシュ 5 人/ポトフ 3 人

④横須賀市とブレスト市が姉妹都市ということを知っているか。

→知っている 2 人/知らなかった 23 人

○考察

フランスでの朝食は日本のご飯やみそ汁、魚などではなく、フランスパンをたっぷりのバターと一緒に食べる事が多い。フランスパンは朝食に限らず、親しまれている。食事のルールとして、家族全員で食事の準備をしているような印象を受けた。さらに家の中でもテーブルセッティングをする家庭が多いという事を知った。そして、毎食必ずナイフが出てくることに驚いた。好きなフランス料理は何かと聞いた結果、チーズパスタなどのチーズ料理が特に人気で、ブレストの多くの方は毎日必ずチーズを食べていた。背景としてチーズの価格が日本より低く、手にしやすいことが挙げられる。ブレストはフランスの西部、ブルターニュ地方に位置している。ここはフランスでもっとも農業が盛んな地域でそば粉やリンゴの栽培が有名とされている。また酪農も有名ということもあり、バターやチーズが豊富に作られ、特産品となっている。また、ブルターニュ地方の郷土料理のクレープ、特にそば粉で生地が作られたガレットも同じくらい人気があった。日本でよく見るクレープとは全く異なり、ブレストで食べたクレープは、生地の味を楽しむようバターと砂糖のシンプルな味付けを基本とし、ナイフとフォークで食べるのが主流だった。また、こんなにたくさんの美味しい郷土料理がある素敵なブレスト市と横須賀市が姉妹都市であるということはほとんど知られていない。今後、例えば、市内での給食のメニューに両国の郷土料理を取り入れて小さい頃から互いの国の料理を食べられる事ができるようにすれば、姉妹都市として新たな価値を生み出すのではないかと思った。フランスは世界的に有名な食文化を持っていて、その中でも派遣学生としてブルターニュ地方のブレストで食事を楽しむことができた。地域ごとに異なる料理や食材があり、その多様性に触れることで異なる食習慣や味覚について理解を深めることができた。



Medway

メッドウェイ市

派遣期間： 8月12日～26日

明石 竜 湘南学院高等学校 2年

古山 翔大 山手学院高等学校 1年



ローチェスター リストレーション ハウス

日付	活動概要
8月12日(月)	羽田空港発 メッドウェイ市着
8月13日(火)	海、テーマパーク
8月14日(水)	ボルダリング、斧投げアクティビティー
8月15日(木)	ローチェスター ブルウォーターという大きなお店でショッピング
8月16日(金)	ロンドン バッキンガム宮殿やビッグベンを観光
8月17日(土)	アーセナルFCのホーム(古山) / ローチェスター城(明石)
8月18日(日)	フォレストアドベンチャー(古山) / オックスフォード(明石)
8月19日(月)	イギリス最大の遊園地
8月20日(火)	市長表敬訪問
8月21日(水)	グルナナック寺院
8月22日(木)	森林探索、Tシャツ作り
8月23日(金)	静岡県伊東市に派遣された交換学生チャーリーの家でBBQ
8月24日(土)	ホストファミリーとボーリング(古山) / グリニッジ(明石)
8月25日(日)	メッドウェイ市発
8月26日(月)	羽田空港着



ゴッドフリー家(写真右から)

スティーブ : スポーツ好きで優しいホストファザー

ダニエル : 語学堪能で明るいホストブラザー

リサ : いつも明るくかわいいホストマザー

ロバート : 真面目かつ面白い交換学生

■誇りと多文化の共存

私は、メッドウェイ市に行く前は、イギリスがアメリカのような多文化が共存する国ではないと思っていた。イギリス人が自国の文化や歴史に誇りを持っている姿に憧れを抱きながらも、その雰囲気馴染めないのではないかという不安も抱いていた。しかし、メッドウェイの街や学校に行くと、そこにはアジア系やアフリカ系など様々な背景を持つ人がいた。これを見て私の不安は消えていった。

日本人は新しいものに惹かれる人が多いが、イギリス人は、オックスフォード大学のような古く歴史のあるものに惹かれる人が多いと感じた。その時、訪問前に想像していた自国の文化や歴史に誇りを持っているイギリス人のイメージも間違いではなかったと思えた。私は、長い歴史と誇りを持ちながらも多文化が共存しているイギリスに更に興味を持った。

■家族と仲間との宝物

私はメッドウェイ市の交換学生やその家族だけでなく交換学生の友人とも関わり、多くの会話や異文化に触れる経験ができた。この2週間は、今までで最も濃密で自分自身を成長させる期間となった。ホストファミリーにはお城やオックスフォード大学へ連れて行ってもらい、友達とは一緒にミニゴルフを楽しむなど、他国の良さを知ることができた。英語が苦手な私を受け入れてくれた仲間達との出会いは本当に嬉しく、別れはとても悲しかった。



日本で作った鎌倉彫に、ニスをつけている様子

■一步の成長

私は物事をポジティブに捉えることができる人間だと思う。しかし、周りからの期待やプレッシャーに弱く、やる気を失うこともある。この事業に参加した頃は、英語を学習することが目的と考えていた。しかし、英語はコミュニケーションの手段に過ぎないことに気づいた。それは、「目的と手段を履き違えてはならない」という考え方に気付くきっかけでもあった。英語力や現地での経験が無駄にしないために、日々努力を重ね、「目的」に向かって歩んでいこうと思う。

■調査「横須賀とメッドウェイ市の高校生の伝統的なお菓子への意識の違い」について

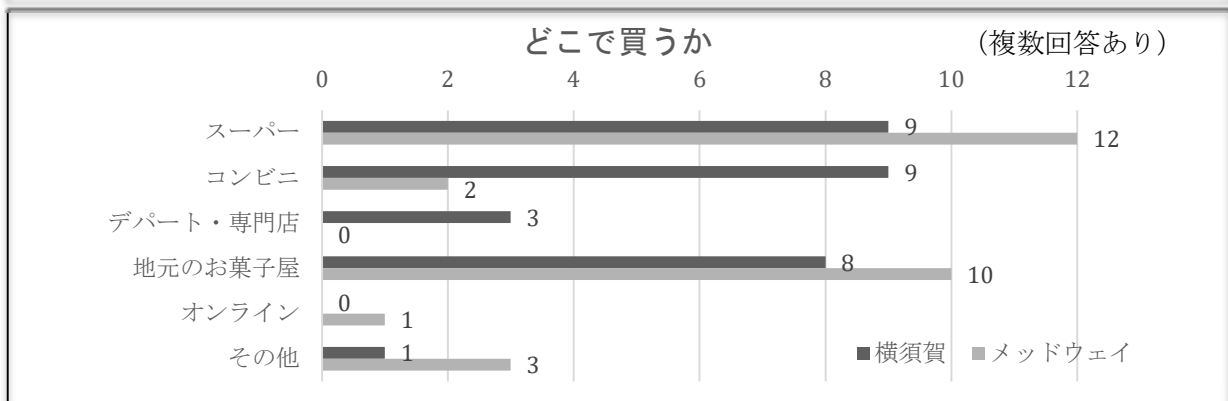
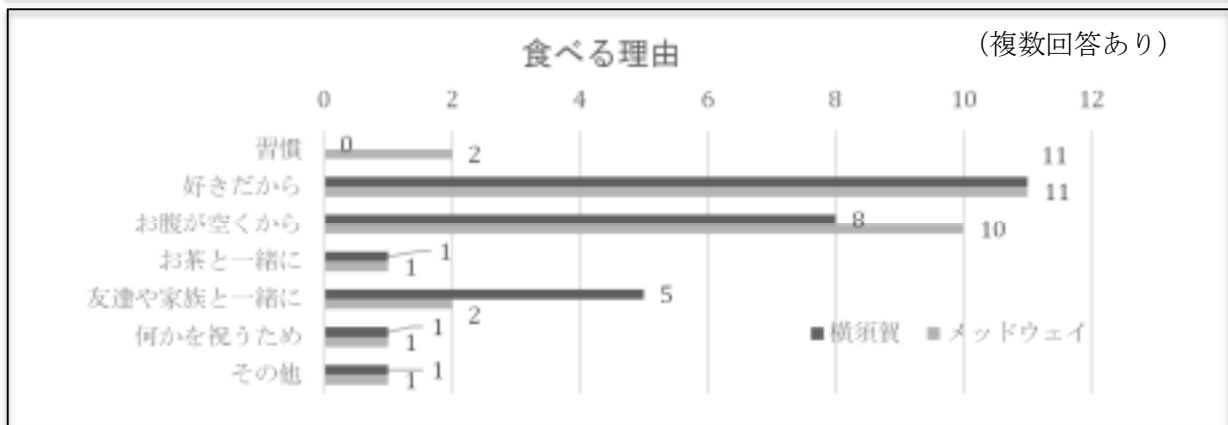
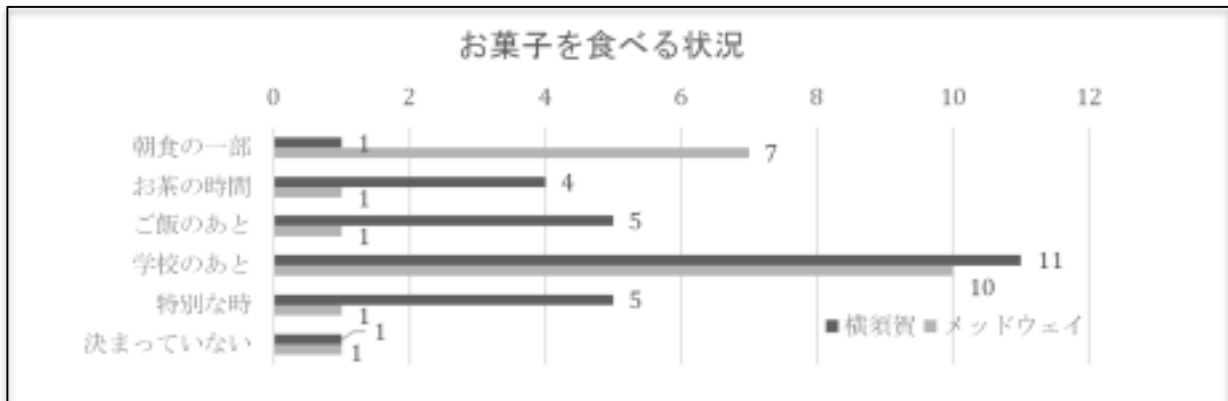
○調査動機

日本ではあまり頻繁に食べることの無いイメージがある和菓子だが、イギリスでは伝統的なお菓子を日常的に食べているということを知ったことがあり、その違いに興味を持った。

○調査方法

メッドウェイの学生21人と横須賀市の友達27人に「お菓子を食べる状況・理由と買う場所」についてアンケートをとった。

○結果



○考察 (*菓子とはその国の伝統的なお菓子のことを指す)

アンケート結果から、お菓子を食べる状況では、横須賀市とメッドウェイの両方で「学校のあと」に食べる人が多いことがわかった。「好きだから」や「お腹が空くから」という理由が主な理由として挙げられている。購入場所は、身近なスーパーや地元のお菓子屋で買うことが多い。これらの結果から、どちらの国でも、お菓子は放課後に間食としてエネルギー補給のために食べられており、気軽に手に入れて楽しむ習慣があると考えられる。

メッドウェイでホストファミリーと一緒にアフタヌーンティーを楽しむ機会に恵まれ、ティータイム文化の素晴らしさに感動した。また、お別れパーティーや誕生日パーティーの際には数多くのお菓子が並んでいた。

和菓子は日本が誇る伝統文化の一つである。しかもコンビニでも簡単に手に入る。私が海外に行く時には和菓子をお土産として持参して、交流のきっかけにしたいと思う。また、海外を訪れる際には、お菓子を通じて現地の文化を知る機会を大切にしたいと考えている。



デビス家(右から)

エリザベス：とっても明るいお姉ちゃん

アリソン：いつもノリノリなホストマザー

ドッグ：料理が上手なホストファザー

アレックス：心優しい交換学生

■異文化との出会い

メッドウェイ市の家庭に滞在したことで、普段の生活や文化に触れることができた。特に印象的だったのは、家族との食事時間だ。ある日の夕食では、クリスマスディナーでもてなしてくれた。プレートには、芽キャベツ、にんじん、じゃがいもをつぶした物や、チキンなどがのっていた。私は、伝統的な料理も食べることができた。ティータイムの習慣にも驚きつつ楽しんだ。家庭内のルールや、家族同士のコミュニケーションの取り方も、日本とは異なっていた。例えば、夕食の時間はテーブルで食べるのが通常ではなく、ソファに座り一人一人のプレートを使い家族みんなでリラックスしながら団らんをしていた。このように日本とは違う新たな視点を得ることができた。

■言語の壁を超えて

滞在中、英語でのコミュニケーションが必要となり、最初は緊張していたが、日々の会話を通じて徐々にその緊張がほぐれていった。その背景には、ホストファミリーが私の拙い英語を理解しようとして、彼らから積極的にコミュニケーションを取ろうとしてくれたおかげだ。私は、英語力が向上し、自信を持って会話できるようになった。しかしどうしても難しい時は身振り手振りを使い必死に伝えようとした時もあった。また私はホストファミリーへのお土産として「けん玉」を持って行った。私がとめけん(鋭い棒に球を入れる技)を見せたら、“Unbelievable!!!”と言われ、言語を超えた心の交流ができたことは、とても貴重な経験だった。



■将来に向けて

メッドウェイ市でのホームステイ経験は、異文化理解や語学力の向上に非常に役立った。現地の生活を通じて、英語だけでなくイギリスの文化や習慣について深く学ぶことができ、視野が広がった。また、現地の人々との交流を通じて、文化の違いや共通点を理解し尊重する姿勢の大切さを実感した。将来は、この経験を活かして国際的な仕事に就き、多様なバックグラウンドを持つ人々と協力しながら、グローバルな視点で課題解決に貢献できる人材になりたいと考えるきっかけになった。

■調査「昆虫食」について

○調査動機

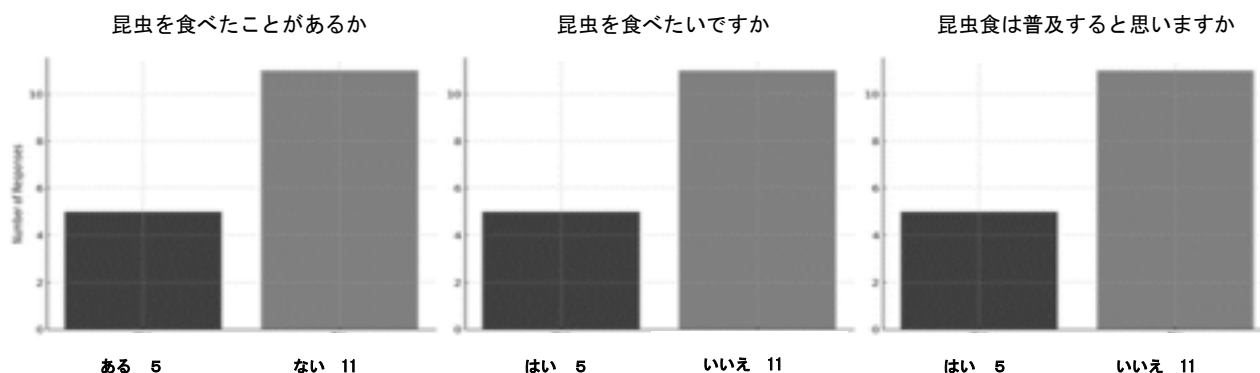
地球上には膨大な数の昆虫が存在し、それらは持続可能な食料資源として注目されている。昆虫食 (Entomophagy) は、世界各国で伝統的に行われている食文化だが、現代の都市部や西洋諸

国ではまだ浸透していない。しかし、環境問題や食糧不足が深刻化する中で、昆虫が高栄養価で低環境負荷な食品として再評価されている。そこで、本調査では昆虫食に対する意識や経験について調査し、将来的に昆虫食がどのように広がる可能性があるのかを探ることを目的とし、調査した。

■調査結果

現地で16人にインタビューをした。

昆虫を食べたことがあると答えた5人のうち、フランスでカタツムリを食べた経験がある者、イギリスでコオロギやクモを食べた経験がある者が確認された。



■考察

調査結果から読み取れることは、昆虫食はまだ一般的な食文化として根付いていないということだ。昆虫を食べた経験がある人の多くが、それを特殊な状況や海外での特別な経験として捉えており、日常的な食事として昆虫を摂取する習慣は少ない。

また、昆虫食の普及に関しても、現時点では「普及しない」と考える人が多くを占めている。これは、昆虫を食材として受け入れるための文化的なハードルが依然として高いことを示唆している。実際の消費行動に結びつかない理由として、文化的・心理的な抵抗、食習慣の違い、味への偏見、昆虫の大量生産や流通のためのインフラがまだ十分に整っていないため、昆虫食が一般化するのにはコスト的にも難しい、寄生虫やアレルギーといった健康と安全性への懸念が挙げられる。

■まとめ

昆虫食に関する本調査では、人々の経験や普及に対する意識について調べた結果、多くの人々が昆虫食に対して否定的な態度を示している現状が明らかになった。一方で、特定の条件下で昆虫を食べた経験がある人々も一定数存在し、昆虫食に対する関心が完全に欠如しているわけではないことも確認された。今後、地球規模での環境問題や食料不足がさらに深刻化する中、昆虫食が持つ高い栄養価や持続可能性といった潜在的な価値が再評価される可能性が高まるだろう。その結果、昆虫食が徐々に普及する道筋が開かれると考えられる。しかし、昆虫食が広く一般に受け入れられるためには、以下の課題が重要である。まず、食文化における意識変容が求められ、教育や啓発活動を通じて昆虫食に対する心理的ハードルを下げる必要がある。また、新しい食品としてのイメージ向上も不可欠であり、味や見た目の工夫、さらには商品としての洗練されたパッケージデザインが普及の鍵を握るだろう。これらの取り組みが相互に作用することで、昆虫食が次世代の主要な食料資源の一つとして認知される可能性が期待される。

令和6年度姉妹都市交換学生事業報告書

発行年月 令和7年（2025年）2月発行
発行 横須賀市
編集 横須賀市市長室国際交流・基地政策課
NPO 法人横須賀国際交流協会